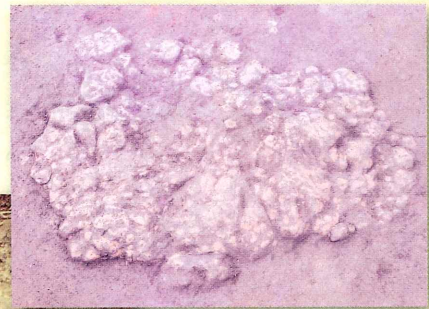
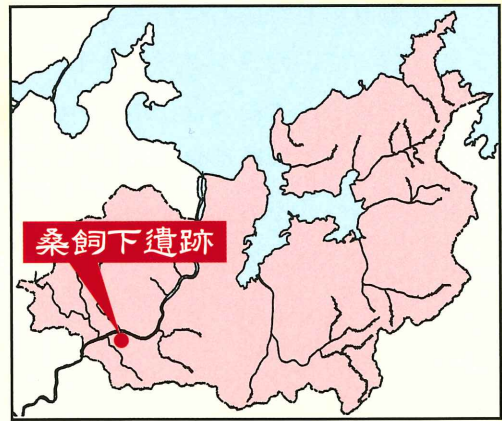


くわ が い し も い せ き  
桑飼下遺跡

縄文時代のタイムカプセル

場所：舞鶴市字桑飼下



炉跡



植物遺体の出土した粘土層

由良川は京都府北部最大の河川で、その流れは肥沃な大地を形成し太古より人々に恵みを与え続けてきましたが、肥沃な土壌は上流からの氾濫によってもたらされることから甚大な被害をもたらすものでもありました。しかし、その恵みに恩恵を受け人々は由良川沿いの高台（自然堤防）上に営みを続け、由良川下流域には縄文時代のムラがほぼ3km 間隔に城嶋遺跡、和江遺跡、八雲遺跡、大川遺跡、志高遺跡、桑飼下遺跡があることが知られています。

桑飼下遺跡はそんな集落のひとつで1973年に調査が行われた縄文時代の研究に名を残す遺跡が桑飼下遺跡です。かねてよりこの周辺及び川底からは土器が採集され、桑飼下遺跡と呼ばれていましたが、由良川の氾濫を防ぐため河川幅を広げる工事中に多量の土器が散布していたことから調査が実施され、関西地方でも有数の縄文時代後期のムラの生活の様子を知る資料が発見されました。

この調査では、縄文時代後期の炉跡が43基発見されたほかにも狩猟に使用した石鏃や魚を獲る網に使用した石錘、根茎類を植えるための土堀り道具である打製石斧、木の実を磨り潰した磨石や石皿などの日常生活に使用した道具類の他に粘土層からは腐食せずに残っていたドングリヤトチ、クルミの他にタヌキヤリスといった当時の食物が出土しました。そこからは、川沿いの自然堤防上に集落を築き、川で魚を獲り、後背湿地にてイモ等の根茎類を栽培する一方、山へ行っはドングリヤクルミ、トチの実を採集し、時には山へ入ってタヌキヤリスの動物を狩猟していた生活が浮かび上がります。食料の多くは身近な所で採れる植物が多いことが分かってきました。このような縄文時代後期の経済基盤は「桑飼下型経済類型」として学史に残っています。

その他にも縄文人のアクセサリーの耳飾りや祈りの道具である石柱、岩板、石刀、土偶なども出土し縄文時代の人々の祈りや食生活を知るための貴重な遺跡です。



炉の検出状況



打製石斧



出土縄文土器